

市政ニュース

降雪シーズン到来！

豊岡市除雪隊発隊式を挙行

12月1日、本格的な降雪シーズンを前に、降雪時の道路除雪体制を整えるため、市役所防災公園北側の駐車場で、豊岡市除雪隊発隊式を行いました。

発隊式には、本庁の除雪隊員(都市整備部職員)約60人が参加し、ずらりと並んだ除雪車の前で、中貝市長から訓示を受けました。

本市の除雪の出動基準は、積雪深が15cm以上。原則午前4時に作業を開始し、おおよ



▲市長の訓示を受ける除雪隊員



▲除雪車両の試運転

ね8時30分までに、市と委託業者の除雪車両、合わせて170台で道路の通行を確保します。

除雪延長は、約730kmで、本市から岩手県花巻市までの直線距離に相当します。

市長は「吹雪の中を、行き交う人々の姿に思いを寄せて、丁寧に、確実に、そして迅速に作業に当たってほしい」と除雪隊員を激励しました。

この後、隊員らは、除雪車両の試運転を行い、3月31日までの長いシーズンに向け、準備を整えました。

「e通勤プロジェクト」で環境保全

国土交通大臣表彰を受賞

環境保全の活動に積極的に取り組み、顕著な功績のあった事業者などに贈られる「交通関係環境保全優良事業者等国土交通大臣表彰」を本市が受賞しました。

全国で9者が受賞し、本市は、地域と一体となった公共交通機関の利用促進を目的とした「e通勤プロジェクト」を継続的に展開していることが評価されました。

12月9日、国土交通省(東京都千代田区)で、表彰式が



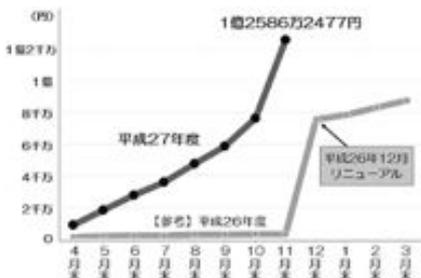
▲山本国土交通副大臣から表彰状の授与を受ける齋藤副市長(中央手前)

行われ、山本順三国土交通副大臣から、齋藤副市長に表彰状が授与されました。

全国から豊岡を応援していただいています！ コウノトリ豊岡寄付金1億円突破

昨年12月に、寄付謝礼品などをリニューアルした「コウノトリ豊岡寄付金(ふるさと納税)」。リニューアル以降、全国の方から、多くの寄付をいただいています。11月18日には、平成27年度の累計額が、1億円を超えました。

《平成27年度コウノトリ豊岡寄付金累計額》(11月30日現在)



主な市政の動き

11月

- 10日・子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭「おんぶの祭典」(15日)
- 13日・仲田光成記念豊岡全国かな書展(15日)
- ・南三陸町(宮城県)佐藤 仁 町長が来訪
- 16日・全州青年会議所公式訪問団(韓国)の市長表敬訪問
- 18日・コウノトリ豊岡寄付金が1億円超(平成27年度)
- 19日・京丹後市・豊岡市合同会議
- 25日・東北大学名誉教授石田秀輝さん出前授業(中竹野小・五荘小、26日・奈佐小・弘道小)
- 27日・市議会定例会開会(12月25日)
- 28日・市民ふれあいのつどい&青少年健全育成大会
- ・運動と学習をセットにする豊岡の教育シンポジウム
- 30日・小浜市(福井県)と「災害時等相互応援に関する基本協定」締結

12月

- 1日・除雪隊発隊式
- ・子ども支援センター移転開所式
- 8日・東日本大震災による新潟県三条市への避難者へ贈り物送付
- 9日・「交通関係環境保全優良事業者等国土交通大臣表彰」表彰式

平成28年度 城崎国際アートセンター アーティスト・イン・レジデンスプログラム決定!

アーティストが滞在し、ダンスや演劇の創作活動などを行う「アーティスト・イン・レジデンス」。平成28年度に、城崎国際アートセンターで創作活動を行うアーティストが決まりました。応募は、世界各地から40件(13カ国)。選考の結果、世界で活躍する17組(演劇9組、ダンス8組)が選ばれました。



平成28年度滞在アーティスト/団体
(代表者所在国)
日本・シンガポール・フランス・ドイツ・オーストラリア・米・国・カナダ

アーティストの滞在期間中には、稽古場の公開や制作途中の作品試演会、また、アーティストとのトークショーなど、市民との「交流プログラム」を実施します。

さらに、滞在アーティストが、市内の小・中学校に出張

し、演劇やダンスのワークショップを行うなど、子どもたちとも交流します。

詳細は、広報紙等で随時お知らせします。

「主な見どころ」

フランスの演出家 **ロラン・コロン**さんは、豊岡で音を探集し、言葉を超えて楽しめる声のパフォーマンスを創作。同じくフランスの演出家 **トマ・キラル**さんは、植村直己・神鍋高原等、豊岡独自の文化資源・自然を作品に取り入れ、「山」をテーマとした演劇を創りあげます。

また、演劇界の芥川賞、岸田國士戯曲賞を受賞した劇作家 **岩井秀人**さんの作品や、ヴェネツィア・ビエンナーレに日本代表として参加し、国内外で高い評価を受ける現代美術家 **束幸**さんによる映像芝居。日本のコンテンポラリーダンス界を牽引し続け、ゴッダードマーと呼ばれるダンサー **黒沢美香**さんの新作も見逃せません。お楽しみに!

平成28年の年賀状用イラスト完成

※市ホームページから自由にダウンロードできます。



平成28年 豊岡市マスコット「玄武岩の玄さん」
猿の彫刻と玄さん



平成28年 豊岡市マスコット「玄武岩の玄さん」
玄太郎



平成28年 豊岡市マスコット「玄武岩の玄さん」
謹賀新年玄さん

中貝市長の徒然日記 ⑯

一歩ずつ、一歩ずつ

映画「エベレスト3D」を見ました。96年に実際に起きたエベレスト登山隊の遭難を映画化したものです。

圧倒的な力で襲いかかる自然の脅威。猛吹雪。酸素の不足。8千メートルの高所では人は一歩ずつしか歩けないし、その一歩や一瞬の判断が生死を分けるという過酷さ。

「冒険をする上で一番大切なことは何ですか?」。これまで、植村直己冒険賞の受賞者の方々にお尋ねしてきました。答えはほとんど同じでした。「一歩ずつ、一歩ずつ」。

目指す場所は、はるか彼方にある。歩いても、歩いても、登っても、登っても、目的地は近づいてこない。むしろ遠ざかっていくような気すらする。そんな時、決してやっつてはいけないこと。それはわめきながら走り出すことだ。どんなに目的地がはるか彼方にあるとも、やるべきことは、目の前の一歩、目の前の一歩を確実に、着実に進める

ことだ。

と同時に、映画は、その一歩がときとしてどれほど危険で緊張に満ちたものかを大迫力で伝えていました。

しかし。では、なぜ、それほどまでして彼らは冒険に臨もうとするのか。

冒険賞受賞者の語る「一歩ずつ、一歩ずつ」には、もう一つ大切な意味が込められているのではないかと、思うのです。それは、未来のための「今」、目的達成のための手段としての「今」ではなく、今、まさにこのとき、この瞬間。二度と帰ってこないこの瞬間を、惜しむように、いとおしむように歩いていくのだ、という意味が。「山頂は、本当は、目的地ではなくて中間点に過ぎず、冒険とは、行って、帰ってくることで」と言われた受賞者もありました。

冒険家たちの偉業は、私たちの日常の行いとはかけ離れています。だから私たちは賛辞を送ります。が、同時に、その偉業は、私たちの人生の願いの延長にあつて、はるか遠くでもしれませんが、つながっているのだと思います。